

施策マネジメントシート1(22年度目標達成度評価)

作成日 平成 23 年 5 月 30 日
更新日 平成 23 年 7 月 12 日

総合計画体系	政策No.	2	政策名	緑豊かな環境と共生するまちづくり	施策統括部	産業振興部	部長名	齋藤 正昭
	施策No.	9	施策名	みどりの景観の保全	施策主管課	農政課	課長名	可徳 精至
					関係課	環境衛生課、都市計画課、商工振興課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市内全域

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
みどりの景観を保全する

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)
山林面積は土地台帳により把握。
市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率は意識調査にて把握。(①、②の合計比率)
設問:「あなたは、身近な里山(雑木林、竹林等)における景観が保たれていると思いますか?」選択肢:①保たれていると思う ②一部そうでないところもあるが概ね保たれていると思う③一部保たれているが概ね保たれてはいないと思う ④全く保たれていないと思う ⑤わからない

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 市域面積	km ²
B	
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 山林面積/市域面積	%
B 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率	%
C	
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A km ²	見込み値				53.17	53.17	53.17	53.17	
		実績値	53.17	53.17	53.17	53.17	53.17	53.17	53.17	
	B	見込み値								
		実績値								
	C	見込み値								
		実績値								
成果指標	A %	目標値				12.92	12.90	12.88	12.86	
		実績値	12.99	12.96	12.94	12.86	12.77	12.70	12.50	
	B %	目標値				55.6	55.6	55.6	55.6	
		実績値	未把握	未把握	53.1	45.7	46.7	42.3	45.7	
	C	目標値								
		実績値								
	D	目標値								
		実績値								
	E	目標値								
		実績値								
	F	目標値								
		実績値								
事務事業数		本数			3	5	6	5	5	
施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			0	0	0	14,417	0
		都道府県支出金	千円			0	0	0	1,078	0
		地方債	千円			0	0	0	0	0
		その他	千円			0	2,957	0	273	0
		繰入金	千円			0	0	0	0	0
		一般財源	千円			1,783	4,054	2,356	114,900	2,113
	事業費計(A)		千円	0	0	1,783	7,011	2,356	130,668	2,113
	(A)のうち指定経費		千円			0	0	0	1,637	10
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円			0	0	0	128	0
	人件費	延べ業務時間	時間			218	168	133	361	366
人件費計(B)		千円			873	673	533	1,434	1,508	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	2,656	7,684	2,889	132,102	3,621	

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)
毎年1haの地目変更(宅地化)があると考えて12.86%に設定した。毎年0.02%づつ山林面積は、減少する予想を立てている。
みどりの景観が保たれているとの支持率55.6%については、竹林等の整備を行い維持していけると考え、現状水準を確保する55.6%に設定した。

基本計画期間における施策の方針
・土地利用基本計画に基づき里山を保全していく。

全庁横断課題「子育て支援日本一のまちづくり」との連携
・特になし

施策マネジメントシート2(22年度目標達成度評価)

みどりの景観の保全

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

- ・山林所有者による維持管理
- ・住宅地の生垣の保全

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・土地利用計画に基づく保全
- ・竹林の整備補助
- ・市所有の公園を維持管理する。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成23年度を見越して)

- ・所有者の高齢化、不在地主が増えることにより、管理されない山林が増える。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・山林が荒れることに伴い、不法投棄が増えているとの声が市民から寄せられている。
 - ・市民ワークショップで「緑豊かな地形で、景観がよく空気がきれい。」「緑が豊かで住みやすい」「住宅地の近くに自然が多く残っている。」「大きな河川がない。」との意見があった。
- (平成22年度の施策評価における総合政策審議会意見)
1. 景観モデル地区を作って重点的に取り組むことが必要である。
 2. 景観が保たれていると思う市民の比率が少ないので、その比率を高めるため、公園等の整備を進めることが必要である。
- (平成22年度の施策評価における議会意見)
1. 里山荒廃の状況が目立つ。竹林整備事業の補助基準の見直しを急ぐべき。
 2. 市街域における緑地帯の保全については、ボランティア等による保全活動の可能な施策を確立。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(22年度目標と実績との比較)

A → ×	【 山林面積/市域面積 : 目標値12.86%に対し実績値は12.50%であった。】
B → ×	【 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比 : 目標値55.6%に対し実績値は45.7%であった。】
C →	【 : 】
D →	【 : 】
E →	【 : 】
F →	【 : 】

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A・開発等により山林面積が減少したことによる。
B・管理が行き届いていない(所有者・管理者の高齢化等により山林の整備ができていない。手入れされていない。)ことに起因すると考えられる。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

(1) 22年度経営方針である、「荒れている原因の分析結果に基づき、身近な里山の適切な管理を進める。」については、里山が荒れている原因は、不在地主の増加や所有者の高齢化で十分な手入れが出来ないことが主な原因と考えられる。今後も里山の所有者へ管理を強く働きかけると共に新しい助成制度の検討を行う必要が有る。「集落の竹林整備については、補助要綱に基づき、さらに整備を進める。」については、平成22年度の補助申請は3件と少なく、利用者は減少傾向にある。現在の補助制度を更に利用しやすくするため、補助基準等の見直しを検討する必要が有る。「みどりの景観の保全に関する市民アンケート結果に基づいて、重点地区を設定し、引き続き身近な里山の保全に取り組む。」は平成22年度のアンケートでは、市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の割合が前年に比べて3.4%増加したものの、依然として低い値で推移している。里山の所有者へ管理を強く働きかけると共に新しい助成制度の検討を行い、里山の整備を促進する必要が有る。「平成21年度に立ち上がった特産品地域ブランド推進協議会で、従来のバイオフィオレスト構想支援事業を引き継ぎ、竹の活用を含めたブランド化の研究を進める。」については、平成22年度末で19品目を合志市ブランドとして認証した。今後も引き続き竹の活用を含めてブランド化を進めていく。

(2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成22年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、農村集落竹林整備助成事業があげられ、貢献した事務事業にはセミコンテクノパーク周辺緑地維持管理事業があげられた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- (1) より良い住環境にしようという意識の啓発。
- (2) 公園の計画的な改修・長期展望に立った都市計画の見直し。

④ 第1期基本計画の振り返り、総括

【第1期基本計画の方針】

- ・土地利用基本計画に基づき里山を保全していく。

【方針に対する振り返り】

- ・里山の保全については、開発により里山の面積は減少傾向にあるが、開発可能な所が少なくなれば落ち着くものと考えられる。また、里山の荒廃を防ぐためには、里山の所有者へ管理を強く働きかけると共に新しい助成制度の検討を行い、里山の整備を促進する必要があると思われる。

5 施策の22年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成23年7月12日)

- ・里山復活のための有効な手段を考えていく必要がある。
- ・竹の有効活用を図る必要がある。

② 総合政策審議会での指摘事項平成23年 8月 10日、17日、24日まとめ)

- ・地域の景観を保つための整備については、支援を継続的に実施していくこと。
- ・多く自生している竹は、先進事例等を参考に商品化するなどの有効活用を図ること。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成23年9月30日)

- ・里山保全のために竹林を雑木林へと転換を図ること。
- ・竹林整備の成功事例を調査し、本市への応用を図ること。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成24年度合志市経営方針(平成23年10月12日)

9. 住環境の充実

1. 安全安心な水道水供給のため、計画に基づき水道施設の整備充実を図る
2. 住宅地の老朽化した道路・側溝等の環境整備を推進する
3. 農村集落竹林整備事業の見直しを行なう
4. 動物との共生(マナー)について、条例案等の研究・検討を行なう

施策マネジメントシート3(22年度目標達成度評価)

基本事業名	24 山林の整備
-------	----------

基本事業担当課	農政課
---------	-----

対象	市街化調整区域の山林
----	------------

意図	良好に管理されている
----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 管理がされている山林/調整区域の山林面積(割合)	%	目標値				1.41	1.61	1.82	2.02
		実績値	1.00	1.00	1.20	1.50	1.72	1.81	1.85
(竹林整備)		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

目標値については、竹林の一部において、集落周辺の環境保全、筍の生産の為にのみ整備されると思われるので微増で推移し、22年度には2.02%になると設定した。

8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題

身近な里山の風景・景観を保全するため、荒れた竹林を整備する農村集落竹林整備助成事業により、H22年度は1,445㎡(3名)の整備が行なわれたものの、年々利用者が減少している。今後は事業の周知を徹底すると共に、より利用しやすい制度になるよう検討を行い、整備率の向上につなげる。

基本事業名	25 自然の保全
-------	----------

基本事業担当課	都市計画課
---------	-------

対象	市街化区域、市街化調整区域内の山林
----	-------------------

意図	保全区域として保全されている
----	----------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 自然公園面積	ha	目標値				19.3	19.3	19.3	19.3
		実績値			16.6	19.3	19.3	19.3	19.3
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

平成19年度に蛇ノ尾公園が供用開始し、19.3haとなり、22年度までは、新設の自然公園の計画はないので22年度を19.3haと設定した。

8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題

自然公園の整備計画はないので、前年度同様の数値となっている。